おかやまトピック　Vol.5

『2022.11.20、日整全国少年柔道大会形競技会』

"子供に夢を持たせたければ、大人こそ夢をもて"昨年亡くなったプロレスラー・アントニオ猪木さんの言葉です。



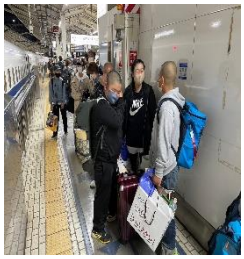
全国の柔整師の中には、日々の施術を行いながら柔道の指導者として活躍されている先生が大勢いらっしゃいます。もちろん岡山県も例外ではありません。

そんな先生方が最も目指す日整全国大会がコロナ禍と台風で中止や規模を縮小しての開催。指導者（会員）の先生にとっては半ば目標を失ったような期間だったと思います。

試合が無いだけでなく、稽古すら満足にできない。　岡山で指導する先生に「練習中もマスクはするんですか？」誰に聞いても答えは同じ「もちろんです」コンタクトスポーツであることを充分に理解し、その上でコロナの恐怖に打ち勝って子供達の指導を続けてくれた柔道指導者の先生方には本当に頭が下がります。



また、その先生の期待にしっかりと応えていた子供達。マスクをして運動（柔道）をする事など、想像しただけでも逃げ出したくなる私にとっては尊敬に値する子供達でした。



そして、そんな子供達を一番近くで支えてきたはずの親御さん。試合の度に勝敗よりも先に「試合はあるのか？」の心配がつきまとっていた期間だったと思います。さらに、全国大会に出場した我が子を見たくても、前回は無観客、今回は入場制限をお願いしての開催。この状況では仕方ないとはいえ大変申し訳ありませんでした。



そんな中で開催された今回の全国大会、我が岡山県チームは柔整杯を勝ち抜いた団体戦メンバー５人（坪井俊廣監督）と、見事中国ブロック大会を勝ち抜いた形競技の２人（藤原靖真監督）三村真輝柔道部長の総勢 10 名。彼らは岡山旋風を巻き起こすために、学芸館中学校の道場をお借りして香川県代表チームとの練習試合や、中学生との合同練習など、しっかりと準備を重ねて当日を迎えました。



まず団体戦の一回戦の相手は三重県、優勝候補です。(なぜかこの大会では初戦で優勝候補と連続で当たっています、くじ引き練習の必要があります)5 人の選手は持てる力を十分に発揮して、強豪相手に互角に戦ってくれました。しかし結果は 1-2 で惜しくも敗れました。(結果、三重県は優勝) 当日、私の携帯は、嬉しさと悔しさの入り混じった三村柔道部長からの写真とコメントで埋め尽くされました。

一方で形競技では昨年準優勝の岡山が優勝候補。難なく予選を突破してくれ、本大会の最後の種目「形競技決勝」にコマを進めてくれました。が、惜しくも 2 位。当然ですが素晴らしい結果です。彼女たちは、ここで大きなご褒美ではなく、もっと大きなご褒美をきっと受け取る機会があるという事だと思い、心を落ち着かせることにしました。

今回の団体戦・形競技の監督は（公社）の会員で、施術後の時間を使って長年子供達の指導を続けてくれているお二人です。そんな先生にとっても良いプレゼントとなった大会であったように思います。





「団体戦」
岡山県代表
監督　坪井俊廣会員
先鋒・松平順成
次鋒・大浦二千翔
中堅・藤井太一
副将・水谷俊介
大将・村上希桜丸



「形競技」
中国ブロック代表
　監督　藤原靖真会員
　　取・小西怜菜　受・坂井明莉





今回、予選も含め参加してくれた子供達は皆、コロナの不安に勇敢に立ち向かってくれました。そんな彼らの将来が素晴らしいものになるようにしなければなりません、私達大人の責任で・・・。